

小・中学校

平成 9 年 度

教育研究員研究報告書

へき地教育

東京都教育委員会

平成 9 年度

教 育 研 究 員 名 簿

市 町 村 名	学 校 名	氏 名
青 梅	青梅市立第七小学校	後 藤 潤
青 梅	青梅市立今井小学校	○ 古 川 恵一郎
あきる野	あきる野市立多西小学校	増 子 康 夫
あきる野	あきる野市立小宮小学校	畑 中 利 之
檜 原	檜原村立檜原小学校	中 上 秀 哉
奥 多 摩	奥多摩町立小河内小学校	北 村 充 全
あきる野	あきる野市立増戸中学校	小 林 達 也
檜 原	檜原村立檜原中学校	◎ 赤 尾 暢 夫
奥 多 摩	奥多摩町立氷川中学校	山 下 久 也
大 島	大島町立第一中学校	金 子 善 美

◎ 全体世話人

○ 副世話人

担 当

東京都多摩教育事務所西多摩支所 指導主事 高 橋 和 雄

同 上 對 馬 伸一郎

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究のねらい	1
III	研究の仮説	1
IV	研究の全体構想	3
V	研究の内容	
	＜検証事例1・小学校第1学年生活「だいずをそだててとうふをつくろう」＞	
	「大豆を育てとうふをつくることを通して、 児童が意欲的に学習に取り組む指導の工夫」	4
	＜検証事例2・小学校第5学年国語「地域に伝わる民話」＞	8
	「地域に伝わる民話を劇化し、 地域への関心や郷土愛を育てる指導の工夫」	
	＜検証事例3・小学校第6学年社会「三人の武将と全国統一」＞	12
	「地域の史跡・史料などを調べることを通して、 歴史学習への興味・関心を高め、自ら学ぶ態度を育てる指導の工夫」	
	＜検証事例4・中学校第1学年美術「奥多摩風物の版画」＞	16
	「地域の風物を題材とした作品制作を通して、 地域への関心と自ら学ぶ意欲を高める指導の工夫」	
	＜検証事例5・中学校第3学年選択社会「身近な地域」＞	20
	「地域の自然・産業・史跡などを調べることを通して、 自ら課題を解決し、地域への興味・関心を高める指導の工夫」	
VI	研究の成果と課題	24

研究主題 体験的な活動を生かし、児童・生徒の生きる力を育む指導の工夫

I 研究主題設定の理由

1 生きる力を育てる観点から

へき地（小規模）校の子供たちは与えられた課題には取り組めるが、自ら課題を深めることが少なく、友達や教師に頼りがちであること（依存性の強さ）がしばしば指摘される。

そこで、これからの変化の激しい社会にあって、よりよい生き方を見出すために、新たな課題を自ら発見し、判断し、何事にも主体的に取り組めるような子供たちの生きる力を育成することがへき地（小規模）校において極めて重要であると考えた。

2 体験的な活動を進める観点から

従前と比べると、へき地（小規模）校の子供たちは、地域の自然に触れる機会が少なくなっている。また、地域の伝統行事や産業を直接体験しづらくなっているとも言える。

改めて、へき地（小規模）校の子供たちを取り巻く地域社会の実情を点検してみると、次

のことが言える。

- ① 地域と学校との関係が密接であり、子供たちを地域全体で応援しようとする雰囲気があること。
- ② 地域特有の文化・伝統が多く、地域素材を豊富に活用できること。
- ③ 子供たちの主体的活動を促すための指導の工夫が従来までもなされてきたこと。

そこで、地域の自然や産業・歴史・文化・伝統などと直接的にかかわり、発表・創作・話し合いなどの表現活動も含めた体験的な活動を充実させることで、子供たちは主体的活動をさらに積極的に進め、新たな発見や感動をしたり、認識を深めたりできると考えた。

II 研究のねらい

子供たちが自ら考え、判断し、主体的に取り組む態度・能力を育てるための学習活動や、その時の教師の支援の在り方を考察し、それらを指導の工夫（手だての工夫）として、具体的に学習指導案上に明記し（下線部）、研究仮説の有効性について検証していくことをねらいとする。

III 研究の仮説

「生きる力」とは、そもそも全人的なものであり、児童・生徒の学習・生活全般にわたって育てていかなければならないものであるが、本研究では「生きる力」を学習場面に限定し、生きる力を備えた目指すべき児童・生徒の姿を次のように考えた。

- ① 自ら学ぶ意欲と進んで学習する態度・能力を身に付けた児童・生徒
- ② 自己を表現し、互いの個性を尊重し合える児童・生徒
- ③ 地域の自然や文化を理解し、大切にす児童・生徒

このような児童・生徒を育てるため、以下の仮説を設定した。

指導計画において、体験的な活動を取り入れ、学習過程、学習形態、学習材の工夫により、以下のことが達成されるであろう。

- ① 児童・生徒が学習をより身近なものとしてとらえ、学習意欲の向上が見られ、個別の課題や疑問をもち、自ら課題を解決する力を付けていくことができるであろう。
- ② 児童・生徒が自分の意見や考えをもち、それを相手に表現することができると同時に自分とは異なる相手の個性や考えを認め、互いに尊重し合うことができるようになるであろう。
- ③ 自分たちの住んでいる地域の自然や文化・伝統などに触れながら、それらに対する理解を深め、地域の一員としての自覚と誇りをもって地域を大切にす児童・生徒を育むことができるであろう。

また、この仮説を大きく単元全体でとらえるばかりでなく、一つ一つの授業の中でも取り組み、検証していくこととした。

IV 研究の全体構想



V 研究の内容

<検証事例・その1>

事例名 「大豆を育てとうふをつくるという活動を通して、
児童が意欲的に学習に取り組む指導の工夫」
小学校 第1学年 生活

1 単元名とねらい

- (1) 単元名 「だいずをそだててとうふをつくろう」
- (2) 単元のねらい

大豆を育てとうふをつくるという活動を通して、自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心をもつ。

2 単元を通した授業仮説

とうふをつくるというめあてをもつことにより、進んで大豆を育てようとする意欲が増し自らつくり育てた大豆を使うことで、楽しくとうふづくりができるであろう。

3 地域の様子

檜原村は過疎という問題を抱えている。しかしながら、豊かな自然を生かした産業もある。檜原小学校の近くにある「檜原とうふ」もその一つである。

自ら大豆を育て、それを使ってとうふをつくるという活動は、具体的な活動や体験を通して、自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心をもつという視点から、「自立への基礎を養う」という生活科の究極的な目標に近づく方法の一つであると考えられる。

4 児童の実態

児童は学習面・生活面ともに受動的な傾向があり、やるべきことが明確に与えられている場合は活動できても、そうでない場合に自ら考えて活動できる児童は少ない。大豆を育て、とうふづくりをするということは第1学年の児童にとって難しいことであると考えられるが、とうふづくりを通して、児童に主体的に活動する力を身に付けていきたい。

5 単元学習指導計画における仮説と検証の視点

時	指導計画	各段階における仮説	検証の視点
1	・とうふを食べ、何からとうふができているか想像する。大豆の観察をする。	・実際にとうふを食べ、それが大豆でできていることを理解することで、大豆を育てていくことへの意欲が増すであろう。	・気が付いたことを先生に話すことができたか。
2	・大豆の種まきをする。	・自分たちで種をまくことで、主体的に活動に取り組もうとする意欲が増すであろう。	・自分から進んで楽しく種まきができただか。
3	・出てきた芽の様子を	・育っていく様子が目に見えるこ	・根っこの様子や、芽の

	観察する。(畑にまいたもの、教室でしめさせた脱脂綿の上に置いたものを用意)	とで、大豆への関心と、育てる意欲が増すであろう。	様子をよく見ていたか。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・草取りをする。 ・自分の大豆を決め、名札をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・草取りをする中で、大豆と他の草との違いに気付いていくであろう。 ・自分の大豆を決めることで、主体的に育てようとする意欲と関心が増すであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生に聞いたりしながら、大豆と他の草とを見極めて草取りができたか。 ・楽しく自分の大豆を決めることができたか。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の大豆の絵を描き、大豆の特徴をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の大豆を描くことで、詳しく観察しようとする意欲が増すであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間をかけて、よく見て描いているか。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおやジャガイモとの違いを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の植物と比較することで、大豆の特徴に気付くであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どれだけ違いを見付けられたか。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・実が付いた大豆の様子を観察し、絵に描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しばらく見ないうちにとても大きくなり、実も付いてきた大豆の様子を見て、とうふづくりへの期待と意欲が増すであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆の実を探そうとしたか。 ・以前との違いに気付いたか。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にとうふづくりをするところを見学する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に大豆がとうふへ変わっていく様子を見学することによって、今後の自分たちの活動への意欲が増し、見通しをもてるようになるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心をもって見学できたか。 ・気が付いたこと、思ったことを発表できたか。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆を収穫し、とれた大豆の数を数え、絵に描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一粒の大豆を育てていくことで、たくさんの大豆がとれるようになることを知り、ものを育てることへの意欲・関心が増すであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく収穫できたか。 ・数を数え、たくさんの豆が実ったことへの喜びをもてたか。

10	<ul style="list-style-type: none"> ・とうふづくりの手順の確認と役割分担をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順を確認し役割分担をすることで、見通しをもって主体的に活動できるようになるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで役割を分担しようとしたか。
11 12 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・とうふづくりをする。(保護者の参加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで育てた大豆を使い、グループで活動することにより楽しくとうふづくりができるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の分担を考えながら、楽しくとうふづくりができたか。 ・グループの友達と仲良く活動できたか。
13	<ul style="list-style-type: none"> ・とうふ屋のおじさんに手紙を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙を書くことで自分のこれまでの活動を振り返ることができ、今後の様々な活動に、主体的に取り組む力になるであろう。 ・仕事をしている人への感謝の気持ちをもつことで、地域の自然や産業への関心が増すであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が行った活動や、おじさんへの感謝の気持ちが込められた手紙を書くことができたか。

6 本時の学習活動

(1) 題 材 とうふづくり

(2) 本時のねらい 友達と協力して、楽しくとうふづくりをする。

(3) 本時の授業仮説

自分たちで育てた大豆を使い、グループで活動することにより、楽しくとうふづくりができるであろう。

(4) 展 開

	学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点	検 証 の 視 点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに分かれる。 ・必要な道具・材料の準備をする。 ・とうふづくりの手順の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>材料に子供たちの育てた大豆を使用する。</u> ・<u>4人グループとし、子供たち同士で協力して活動するようにする。</u> ・必要な道具は用意しておく。 ・メモを見て、自分たちで道具の確認ができるようにする。 ・手順は紙に書き、黒板に貼って 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで相談し、全員が動いているか。 ・手順を覚えているか。

		おく。	
展	<ul style="list-style-type: none"> 大豆に水を加えミキサーでひく（大豆は前日の夜から水に浸しておく） 	<ul style="list-style-type: none"> すべての児童が作業にかかわれるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> グループで協力して全員が作業にかかわっているか。
開	<p><本 時></p> <ul style="list-style-type: none"> 水を加え、混ぜながら10分間煮る。 絞って、おからと豆乳に分ける。 豆乳ににがりを加える。 時々混ぜて20分おく。 とうふができる。 型に入れ重石をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 分担表を見ながら作業を進められるようにする。 子供たちが自分でできるように道具の工夫をする。 薬品やにがりは、入れれば済むように教師が用意しておく。 子供にできないところや、危険なところを補助してもらうために、保護者に各班1名ずつ付けてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師を頼らずにできるか。 楽しく作業をしているか。 進んで片付けなどをしてようとしているか。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> とうふを固めている間に、おぼろ豆腐の試食をして感想を言う。 片付けをする。 <p>（固まったとうふは、家へのおみやげ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 感想を言うのは発言したい児童2、3人とどめる（次時に手紙を書くので）。 感想カードを書く。 手分けしてできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 手を挙げて発言しようとしたか。 感想カードの内容。 自分から進んで片付けをするか。

(5) 評 価 同じグループの友達と協力しながら、楽しくとうふづくりをすることができた。

(6) 授業仮説に対する評価

自分たちで育てた大豆を使うことにより集中してとうふづくりに取り組むことができた。また少人数のグループで活動することで、すべての子の活動を保証することができた。そのため、1年生にとっては長い時間であったにもかかわらず、楽しくとうふづくりを続けることができた。

8 成果と課題

子供たちは最初大豆の観察をしたり世話をしたりすることに意欲的ではなかったが、だんだんと大きくなり実がなってくると意欲が次第に高まってきた。そして収穫はとても楽しくすることができ、とうふづくりへの期待も高まった。とうふづくりの場面では、長い時間であったにもかかわらず、最後まで意欲が持続した。感想カードの結果でも「とてもがんばった」「とてもたのしかった」という児童がほとんどであった。その後の生活科の学習への意欲も高まってきている。しかし、作業の進行などを教師がそろえようとしたために、主体的に活動する力を十分に育てることはできなかった。事前に補助してもらう保護者などと十分

な打ち合わせを行い、子供たちのペースで活動できるように工夫していく必要がある。

< 検証事例・その2 >

事 例 名 「地域に伝わる昔話を劇化し、地域への関心や郷土愛を育てる指導の工夫」

小学校 第5学年 国語

1 単元名とねらい

(1) 単 元 名 「地域に伝わる昔話」(民話)

(2) 単元のねらい

ア 舞台の情景や、人物の動きや気持ちを考え、楽しんで劇を作り、演じることができる。

イ 自分の意見を持ち、また他人の考えも尊重しながら、協力して劇を作ることができる。

ウ 民話の朗読、脚本作り、劇化、地域の人への取材、地域を調べたりすることにより、郷土への親しみを深め、大切にすることを育てる。

2 単元を通じた授業仮説

自分の地域に昔から伝わる民話に触れ、それを劇化し、擬似的な体験学習をすることにより、地域の風土、昔の人々の暮らしぶりについて、自ら興味・関心を持ち、意欲的、主体的に学習する態度が養われるであろう。また、せりふや動きを自分たちで考え、話し合うことにより、自分の考えをもちながらも、周りの考えも尊重する態度が養われるであろう。そして、言語表現のみに留まらず、身体表現をも加味した活動をすることにより、昔の地域の人々の気持ちをより身近に感じることができ、地域に対する関心も深まり、郷土愛を育てる素地づくりになるであろう。

3 地域の様子

本校学区(小曾木地区)は、複合家族が多く、児童の親同士が幼なじみであったり、祖父母も本校の卒業生ということも珍しくない。また、市街化調整区域に指定されて十数年、他地区からの転入など人的交流が少ないためか、村落共同体の協力性と閉鎖性を合わせもっており、地域に対する愛着も深いように感じられる。このように、地域のつながりが密接なので、お年寄りから昔の地域の様子について、話を聞いたりする機会はつくりやすい。また、児童の地域に対する愛着もあるように思える。

4 児童の実態

国語に対する実態としては、教科の中で算数に次いで嫌いな教科である。「理解」に関しては、かなり力をもっている児童もいるが、「表現」に関しては、苦手な児童が多い。他の教科に比べて、授業中の手を挙げての音読、発言も一部の児童を除いては非常に少ない。原因としては、恥ずかしい、照れくさいという気持ちが大きく、間違った発言をしたり、音読で失敗したら皆に笑われるという意識が強いようである。本単元では、児童が教材に興味・関心を持ち、恥ずかしさ、照れくささに打ち勝って、楽しく、伸び伸びと演技をし、積極的に授業に参加し、主体的に活動できるような指導をしたいと考えている。

5 単元学習指導計画における仮説と検証の視点

時	指 導 計 画	各段階における仮説	検 証 の 視 点
1 2	①宮沢賢治の「おいの森とざる森、ぬすと森」を振り返り、考える。 ・なぜ賢治は郷土を舞台にした話を作ったのか。 ・賢治はこの話で何を伝えたかったのか。 ※賢治の話を実化し、演じる中で考える。 ・この小曾木地区にも地域を舞台にした話はないだろうか。 ※小曾木地区を舞台にした昔話について、家族や地域の人に聞いてくる。	・劇化という方法によって、賢治の気持ちを考えることにより、郷土を舞台にした話に対し興味・関心をもち、自分たちの地域の昔話について考えることで、興味・関心が更に高まるであろう。	・劇化を通して賢治の思いを感じ取り、その思いを自分たちの地域に置き換え、地域を舞台にした昔話に興味・関心をもつことができたか。
3 4 5 6 7 8 ～ 11 12 13	②小曾木地区を舞台にした昔話について、聞いてきたことを発表する。 ・調べてきた昔話を聞き、感想を述べ合う。 ・予め用意しておいた昔話も読み聞かせる。 ・自分たちで調べた昔話を、家の人や他学年の児童にも、何かの方法で伝えることはできないか考える。 ③昔話の脚本作りの準備をする。 ・資料を読み深め、舞台の情景や登場人物の気持ちを考える。 ・グループ分けや劇化の方法を考える（寸劇、人形劇、紙芝居、影絵等） ④脚本を作る ・場所、人物、できごと、せりふ、その時の気持ちを考え、脚本にまとめる。 ⑤実演に向けての練習や準備をする。 ・朗読、動作化、演出方法を工夫する 《 8 時 間 目 : 本 時 》 ⑥(1)グループ発表（他学年参観） ・A、B、Cグループによる実演。 ⑥(2)グループ発表（授業参観） ・A、B、Cグループによる実演。 ・実演を終えての感想を発表する。	・調べたことを発言したり友達の話聞くことによって、話により身近になり、他の人に伝えるという動機から劇化という考えが生まれ、意欲が出るであろう。 ・資料の読み深め、劇化の方法の検討、グループ分けの活動を通して意欲的に取り組むことができるであろう。 ・みんなで意見を出しながら一つのものを作っていく中で、自己を表現し、互いの個性を尊重し合える態度が養われるであろう。 ・第三者の前で演じることにより、学習に対する意欲が増し、自ら進んで学習に参加することができるであろう。	・話の内容を身近なものとしてとらえ、人に伝えるという動機付けによって劇化に対する意欲が出てきたか。 ・資料に対する想像をふくらませ、意欲的に課題に取り組むことができたか。 ・計画的に話し合いを進めることで、自己を表現し、互いの個性を尊重することができたか。 ・第三者の前で演じることで意欲が増し、より主体的に学習に参加できたか。
14	⑦単元のまとめをする。 ・単元全体を振り返り、感想文を書く。	・感想文を書くことで郷土愛を深め、表現できるであろう。	・郷土愛を深め、表現することができたか。

6 本時の学習指導

(1) 題材 「昔の地域の様子を想像しながら、劇を作ろう。」

(2) 本時のねらい

ア 舞台の情景や、人物の動きや気持ちを考えながら、楽しく意欲的に取り組むことができる。

イ 互いに意見を出し合いながら、協力して劇を作ることができる。

ウ 昔話を身近に感じ、地域に対する愛着を深めることができる。

(3) 本時の授業仮説

自分の地域に昔から伝わる民話を自分たちで脚本化することにより、擬似的な体験活動への足掛かりができるものとする。しかも、自分たちで調べ、劇の方法を考え、グループ分けをしたうえで作った脚本であるから、ただ単に与えられた脚本よりも愛着が増し、より主体的な表現活動ができるだろう。また、第三者の前で発表するという目的があるので、みんなで意見を出し合い、良いものを作るという共通の目標が出来、そのために自分の意見を出し、他の児童の意見も取り入れるという、協力的な気持ちが養われるであろう。そして言語・身体を使った表現活動を通じた取り組みにより、昔の地域の様子や人々の気持ちを身近に感じ、地域に対する関心が高まり、愛着も増すであろう。

(4) 展開

	学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点	検 証 の 視 点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習内容を確かめる。 本時の流れを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習内容を整理させ、また本時の学習内容を明確にさせ学習意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの頑張りを自分で認め、さらに意欲的になっているか。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 作業の流れを確かめ、配役、係担当を決める。 グループ毎に作業を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> カードを使い、役割分担、見通しを明確にさせる。 どの児童も、協力して、意欲的に取り組んでいるか留意する。特にグループ活動から取り残されがちな児童については、積極的に参加するように働きかけ、周りの児童にも配慮するように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いに意見を出し合い、協力して話し合い活動を進めているか。 助け合いながら、楽しく意欲的に、練習、準備に取り組んでいるか。 昔話をより身近に感じることができたか。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> グループ毎に、現時点での進み具合、次時に行う作業の確認をし、本時の反省をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを使い、反省点を整理させる。 励ましの言葉をかけ、本時の反省が次時へ生かされるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 次時への意欲をもつことができたか。

(5) 授業の評価

ア 舞台の情景や、人物の動きや気持ちを考えながら、楽しく意欲的に取り組むことができたか。

イ 互いに意見を出し合いながら、協力して劇を作ることができたか。

ウ 昔話を身近に感じ、地域に対する愛着を深めることができたか。

(6) 授業仮説に対する評価

脚本化する民話が、教師のほうから与えられたものでなく、自分たちで調べたものであるということが、何よりも児童の意欲を掻き立てたように思える。また、自分たちで、セリフや場面設定を考え、劇の方法を考慮しながら、想像力を働かせて脚色を加え、手塩にかけて作った脚本であるから、劇作りにも、主体的・意欲的に取り組むことができた。

また、地域の民話ということで、舞台となる場所も児童にとっては馴染みのある所や、通学時に通っているところなので、「この辺りは、昔はこんな感じだったのかなあ…。」と、楽しく空想することができ、自ずと地域に対する愛着も増していったようである。

さらには、保護者や他の学年・学級の児童に、作った劇を見てもらうという目的があるため意見が違ったときなども、どの児童も「みんなに楽しんでもらう劇を作るには、どうしたら良いか。」という位置に立つことができ、自分の意見をもちながら、他の児童の考えにも耳をかし、協力的に作業を進めることができた。

7 成果と課題

物語の劇化は、児童にとっては初めての経験であったので、かなり戸惑うであろうと思われたが、児童は思いのほか意欲的に取り組んだ。その一番の理由は、自分たちで作上げたものを他の人に見てもらうという目的があったからだと思われる。まとめの感想文の中でも見に来た人が喜んでくれたのが良かったという声が多くあった。

また、始めは嫌だったけど、取り組んでいるうちに楽しくなり、劇の発表が終わった時は、とてもうれしかった、やってよかったという意見も多くあった。

このことから、児童は、劇化する教材が自分たちの住んでいる地域を舞台にした話だったことで興味をもち、また、自分たちで脚本を作ったり、劇作りをしたりすることで意欲が更に高まり、発表という共通の目標をもつことで、自分の考えをもちながらも、周りの意見も尊重する態度で話し合いを進めることができ、実際に劇を作り演じるという擬似体験を通して、昔の地域の人々の気持ちをより身近に感じることができたのであろう。

今後の課題としては、教材が地域の民話ということで、内容的に今一つ乏しさが感じられ、小学5年生の国語の教材としては物足りなさを感じた。地域の民話を、国語の教材としてどのように高めていくか、更に検討する必要がある。



< 検証事例・その3 >

事例名 「地域の歴史・史料などを調べることを通して、
歴史学習への興味・関心を高め、自ら学ぶ態度を育てる指導の工夫」
小学校 第6学年 社会

1 単元名とねらい

(1) 単元名 三人の武将と全国統一 ——八王子城の学習を通して ——

(2) 単元のねらい

ア 織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三人の武将の事績を中心に調べ、戦乱の世の中が次第に統一されていった様子や外国との関係をとらえることができる。

イ 滝山城や八王子城の遺跡・遺物・文献史料などに興味・関心をもち、自ら学習課題をたて意欲的に調べることができる。

ウ 調べ学習を通して、この地域での人々の生活や戦いの様子を考えることができる。

エ わかったことを絵に表現し、発表できる。

オ 天下統一とこの地域のかかわりを理解できる。

2 単元を通じた授業仮説

身近な素材である滝山城・八王子城を教材として取り上げることによって、学習への興味・関心がわき、自ら学ぶ意欲を高め進んで学習するであろう。また、地域の文化を理解し、大切に作る児童・生徒が育てられるであろう。

3 地域の様子

- ・ あきる野市は各時代を通じて、文献史料が豊かな所である。
- ・ 保護者や地域の方々は学校に協力的であり、貴重な資料を授業に活用させてくれたり、来校して説明してくれたりする方もいる。
- ・ 天下統一時代のこのあたりの地域（あきる野市を含む西多摩郡）は、小田原城の後北条氏の四代目氏政の弟の氏照の支配下にあった。城主氏照の滝山城・八王子城はともに国の史跡になっている、関東屈指の城である。秀吉軍との戦いにあたり、拠点を滝山城より八王子城に移動した。八王子城では、天下統一の最後の戦いが行われたが遺物も多く、遺構もよく残っており、一部は発掘・復原されている。城主氏照の手紙等も多数地域に残されている。また、いくつもの中世の館・城跡が上記二城を守るように残っている。八王子郷土博物館にはこれらに関する資料もある。

以上により、教材に適すると考え教材化した。

4 児童の実態

- ・ 歴史の本は好きな児童が多く、読んでいる児童はよく見かける。
- ・ これまで調べる学習はあまり経験していない。適切な支援が必要である。
- ・ わかっているけど発言しない傾向がある。
- ・ 素直ではあるが、学習・生活ともにやや受け身である。

5 単元学習指導計画における仮説と検証の視点

時	指 導 計 画	各段階における仮説	検 証 の 視 点
1	・織田信長が鉄砲などの新しい戦法を使って勢力を拡大し、全国統一のさきがけとなったことをとらえる。	・詳しくわかる長篠合戦図により興味・関心がわき、学習意欲が高まるであろう。	・図・絵に興味・関心をもって調べたか。
2	・秀吉の天下統一と八王子城の関係を知る。	・調べる観点を設定することにより、現地での主体的な調べ学習が展開されるであろう。	・観点に沿い、意欲的に調べたか。
3	・八王子城の「敵を防ぐ工夫」を現地で調べる。		
4	・八王子城の遺物や、写真を見て、戦いや生活の様子を考える。	・遺物を見ることにより、戦いや生活を身近なものとして感じ取れるであろう。	・遺物から、戦いや生活の様子を考えられたか。
5 (本時) 6	・八王子城での戦いの準備を城主氏照の手紙などを通して調べる。	・地域史料を使った問題解決学習により、興味・関心がわき意欲的に学習するであろう。	・地域史料により、興味・関心をもって、学習できたか。
7 8	・学習のまとめとしてわかったことを絵に表し、発表する。	・わかったことを絵に表現することにより、地域の歴史を身近に感じ取れるであろう。	・学習のまとめとして絵に表し発表できたか。
9 10	・秀吉軍が勝った訳を検地・刀狩り・身分制度などの次代につながる政策と結びつけて調べ考える。北条軍との比較もする。	・文献史料を児童にわかりやすく書き直すことにより、調べる意欲が増すであろう。	・個人で、グループで意欲的に史料を調べていたか。
11 12	・秀吉の朝鮮侵略について、史料を調べ、感想を出し合ったり感想文にまとめたりする。	・秀吉軍の朝鮮侵略で行った事実を史料で調べ知ることにより、さらに調べたいという意欲をもつだろう。	・史料からわかる事実により、さらに調べてみたいという意欲をもったか。

13	<ul style="list-style-type: none"> 徳川家康が、信長・秀吉の後を受けて全国の大名を従えて幕府を開き、江戸幕府の基礎を固めたことをとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 関ヶ原合戦図・大阪の陣図 江戸図屏風・合戦後の大名配置図の活用により、興味・関心をもって意欲的に学習できるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種絵図を活用し意欲的に学習できたか。
----	---	---	---

6 本時の学習指導

(1) 題 材 八王子城主氏照の手紙を読もう。

(2) 本時のねらい（2時間扱いのうち1時間目）

ア 「草花村の住人も、戦ったり死んだりしたのだろうか。草花村の住人はなぜ八王子城と小田原城の2か所で死んでいるのだろうか。城主氏照は八王子でなく、なぜ小田原で死んでいるのか。」などの身近な問題を興味・関心を持って、意欲的に調べ、学習できる。

イ 予想したことや調べたことを発表し合うことができる。

ウ 地域史料による学習により、地域への愛着を深めることができる。

(3) 本時の授業仮説

地域史料を使った問題解決学習により、興味・関心がわき、意欲的に学習するであろう。

(4) 展 開

時	学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点	検 証 の 視 点
15分	<ul style="list-style-type: none"> 問題「草花村の住人は戦ったのだろうか。戦って死んだりしたのだろうか。」を考える。 (予想→発表→史料調べ→発表) 大悲願寺の過去帳を見ながら調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実物投影機を利用する。 わかりやすくするため、ゆっくり大きく映す。 問題以外でもわかったことは書くように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心をもち意欲的に学習できたか。 (予想の発表) (史料を見る態度の観察) (ワークシート)
25分	<ul style="list-style-type: none"> 問題「なぜ草花村の住人は八王子と小田原の2か所で死んでいるのだろうか。」 「城主氏照は八王子城でなく、なぜ小田原で死んでいるのだろうか。」 史料「氏照の手紙」を読む 	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすい史料にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心をもって意欲的に学習できたか。 (予想や調べたことの発表) (調べる態度の観察) (ワークシート)

	み調べる。	・問題以外のことでもわかったことは書くように促す。	
ま と め 5 分	・わかったことを発表する。	・次時への意欲付けとして発表させる。	

(5) 評 価

ア 授業後のアンケートの「今日の授業はおもしろかったですか」「調べて、こんなこともあったのかと思ったことはありましたか」に対して、それぞれ表現は異なるが大多数の児童が「おもしろかった」「あった」と答えているので、興味・関心をもって意欲的に学習できたと思う。

イ 積極的な発言を期待してワークシートを活用したが、大多数の児童は予想したことや調べたことを書いているのに、挙手・発表はそれほどでもなかった。発表力をつける工夫の必要を感じた。

ウ アンケート「また、城調べに行きたいですか」の児童の答えは、表現は様々だが、全員が「行きたい」であった。直接本時とはかかわりないが、八王子城を調べたまとめに、ある児童は「…私は、こんな城が身近にあると思うとすごくうれしいです。またいっぱい調べて昔のことをたくさん知りたいです…」とあった。本時でも地域への愛着を深めたことがわかった。

(6) 授業仮説に対する評価

児童が実際に調べた八王子城の築城に草花村（学校のある場所の戦国時代の村名）の住民もかかわったことを強く予測させる地域史料や、草花村の住民も秀吉の天下統一の戦いの時に八王子城や小田原城で戦い、戦死した人がいることを示す地域史料の発見・活用により、歴史学習を身近に感じ、興味・関心をもち、意欲的に学習できた。しかし、問題解決学習等について次に述べる課題を残した。

7 成果と課題

滝山城・八王子城の敵を防ぐ工夫を現地で具体的に調べたこと、地域の文献史料で学習を組み立てたこと、わかったことを絵にまとめたこと、実物投影機の使用等により、児童はとも興味・関心をもって、意欲的に学習できた。

課題としては、教師側から問題を提示したが、児童の側から引き出す工夫ができなかったか、問題が適切であったかどうか、予想のところでも必ずしも書かせなくても良かったのではないか、そのために史料の読み取りの時間が少なくなってしまったのではないかと、みんなで問題を解決するという場面の広まりがもっとほしかったこと、などが残された。

< 検証事例・その4 >

事 例 名 「地域の風物を題材とした作品制作を通して、
地域への関心と、自ら学ぶ意欲を高める指導の工夫」
中学校 第1学年 美術

1 題材名とねらい

(1) 題 材 名 「奥多摩風物の版画」(一版多色木版画)

(2) 題材のねらい

奥多摩の風物をもとに、線の強弱や配色を工夫して、郷土色豊かな作品を制作する。

2 題材を通した授業仮説

身近な地域の自然について体験学習をし、それをもとに作品の題材を決めることで、地域に関心をもって制作に取り組むことができるであろう。また、作例や手順の提示を工夫し、版画独特の制作過程を楽しむことで、表現に対する意欲が更に増すであろう。

3 地域の様子

多摩川の流れて山々に囲まれ、豊かな自然に恵まれた地域である。「東京の奥座敷」とも呼ばれ、紅葉の時期を中心に、休日には観光客が多数訪れる。また、伝統的な芸能文化などが大切にされている地域でもある。過疎化、高齢化が進む中で、子供たちには広い視野を身に付けると同時に、将来は地域に残って(戻って)活躍してほしいとの願いがあり、学校教育に対する期待も大きい。

4 生徒の実態

幼い頃から行事や川遊びなどを通じて、地域の自然や文化とのかかわりは比較的多いと思われるが、成長するにつれ直接体験が減り、情報化社会の中で、生徒の関心はもっぱら地域の外へ向けられている。少子化の中で、まわりの大人に温かく手をかけられて育てられており、学校内での友人との付き合いも家族的な雰囲気、のびのび自由に生活している。その反面、社会性が十分に育ちにくい傾向があり、真面目だが受動的な態度も見られ、表現活動の充実が課題となっている。

5 学習指導計画における仮説と検証の視点

時	指 導 計 画	各 段 階 に お け る 仮 説	検 証 の 視 点
1	・一版多色木版画の制作手順を理解する。	・制作の見通しをもつことで、次時の見学への目的意識が高まるであろう。	・版画の制作手順や表現の特性をおおよそ理解し、次時への期待がもてたか。
2 3	・奥多摩ビジターセンターで地域の風物について体験学習をする	・目的をもって取り組むことで、積極的に学習に参加しようとする意欲が増すであろう。	・進んで説明を聞いたり、資料を調べたり、実物に触れてみようとしたか。
4	・題材を考え、ラフスケッチをす	・資料を調べたり、観察して理解が深まる中で、より具体的な作	・題材を自分なりに再構築して、スケッチに表わすこと

	<p>る必要に応じて 図書室で関連資 料にもあたる。</p>	<p>品のイメージが浮かぶであろ う。</p>	<p>ができたか。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> 技法を考慮し構 想をまとめ、下 絵を描く。 	<ul style="list-style-type: none"> 版画の技法を再度確認するこ とで、単純化や強調を考え、目的 に合った下絵の制作に取り組む ことができるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 画面構成を考え、彫りに適 した下絵を描くことができ たか。
6 7	<ul style="list-style-type: none"> 版木に下絵をト レースし、彫刻 刀で彫る。 	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻刀の試し彫りを通して、線 の強弱の工夫を考えることがで きるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 単純な線彫りにならないよ う工夫しようとする態度が 見られたか。
8	<ul style="list-style-type: none"> 下絵に色鉛筆等 で彩色し、配色 計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 刷りという目的を自覚すること で、配色計画を意欲をもって取 り組むことができるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 配色計画に意欲的に取り組 んだか。
9 (本 時) 10	<ul style="list-style-type: none"> 版木に黒ラシャ 紙を固定し、刷 りの作業をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育機器を活用した作例、制作 手順の提示を受け、刷りの楽し さの過程を体験するなかで、さ らに作業に集中し、工夫するこ とができるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 刷りの作業に集中し、表現 を工夫することができた か。
11	<ul style="list-style-type: none"> 重色、にじみ、 ぼかしなどの効 果を生かして作 品を仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ハイライトを加えた作例等を見 て、その効果を試すことで、多 色版画の美しさを更に追求する ことができるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種の効果を進んで試し、 更に表現を深めることがで きたか。
12	<ul style="list-style-type: none"> できあがった作 品を色画用紙に 貼って仕上げ、 お互いに観賞す る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自他の作品を鑑賞することで、 表現の工夫や、美しさを認め合 うことができるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞を通じて、自他の作品 に自分なりの感想をもつこ とができたか。

6 本時の学習指導

(1) 題材 「刷り」

(2) 本時のねらい

ア 配色を工夫し、美しい表現を追求する。

イ 細部まで丁寧に作業を進める。

(3) 本時の授業仮説

作品の制作にあたって、教育機器を活用した実演や作例の提示を受け、版画の醍醐味である刷りの楽しさを体験することで、より意欲的に取り組む態度が生まれるであろう。

(4) 展開

	学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点	検 証 の 視 点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの制作進捗の確認と、本時のねらいを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各自に進行状況を確認させる。 実物投影器とモニターを使って本時の制作手順を実演し、参考作例を提示しながら、注意すべき点を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実演と作例を見ることで、制作意欲が増し、スムーズに次の作業準備の行動へとつながったか。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 版木に黒ラシャ紙を止める。 配色計画を基に絵の具で色を作り部分ごとに版にのせ、刷る。 刷りの具合を見ながら絵の具の溶き加減を考え、作業を進める。 区切りのよい面ごとに着色、刷りを繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ラシャ紙がずれないようにしっかりと止めさせる。 黒地に刷るので、明るめに色を作るように指示する。 個別に作業の様子を確認し、手順や絵の具の混色、ばれんの扱い等について助言する。 発色の状況を見ながら、色の明るさや水の量などを加減させる。 進度に応じて参考作例を示し、最後まで丁寧に制作に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 刷りの作業を楽しく進めることができたか。 刷りの状態を確認しながら、絵の具の濃さや色合いなどを進んで工夫しようとしたか。 粘り強く制作に取り組んだか。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> 本時の制作進捗、結果、態度について振り返る。 後片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各自の進捗を確認し、次時の仕上げ作業の予告をする。 ラシャ紙が張り付かないよう、開いた状態で乾燥させるよう徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の取り組みについて振り返ることができ、次時へ期待がもてたか。

(5) 評 価

ア 配色を工夫し、美しい表現を追求することができた。

イ 丁寧に作業を進めることができた。

(6) 授業仮説に対する評価

教育機器を活用した実演や作例の提示を行ったことにより、刷りの楽しさを体験しながら、より意欲的に制作する態度が見られた。

7 成果と課題

本校美術科では、以前から地域素材等を活用することを心掛け、実践している。奥多摩を題材にした版画は、昨年度の1年生にも取り組ませているが、本年度は新しくビジターセンターでの体験学習や、教育機器の活用を取り入れ、より効果的な指導法を模索した。結論から言えば、この取り組みはおおむねよい結果として現れた。

ビジターセンターでの取り組みは、今まで知っているようで知らなかった地域の動植物を中心に関心を高めることができ、「奥多摩の風物」という題材をより広く、そして具体的に考えるきっかけとなった。そして、昨年度と比べ、特に下描きの段階ではほとんどの生徒がより丁寧に、細部まで描くことができた。

実際に作業を進める上では実物投影器を利用し、制作の実演や参考作品の提示を行ったが生徒はよく集中して見ることができた。特に、刷りの手順については、実演しても一度に全員に見せることはできないので、以前は言葉で説明し、あとは個別指導に頼って授業を展開していた。今回はモニターに教師の作業する手元の様子を大きく写し出す方法をとったので、生徒は実際の作業を全員一緒に見ることができ、よく理解した上で作業に取りかかれた。そのため以前は多かった手順に関する細かな質問が減り、勘違いによる作業ミスもほとんど見受けられなかった。

今回の取り組みを通じて、制作進度に合わせて適切な作例の提示などを行い、生徒の意欲を高める工夫をすることは非常に重要であると痛感した。作業の目的を理解させ、見通しをもつために、言葉だけでなく、視覚に訴えることで、その後の作業の集中度も高まるということが分かった。また、後半の刷りの作業においては、一部分ごとに色をのせ、刷るたびに一喜一憂する様子から、生徒は楽しみながら版画を作ることができたと思われる。これは版画の制作の過程で最も楽しい部分であり、教材そのものの持っている力が現れたともいえる部分である。こうした事から、題材の吟味も特に重要であると改めて感じた。

<検証事例・その5>

事例名 「地域の自然・産業・史跡等を調べることによって、
自ら課題を解決し、地域に興味・関心を高める指導の工夫」
中学校 第3学年（選択教科社会）

1 単元名とねらい

(1) 単元名 「身近な地域」（選択教科社会）

(2) 単元のねらい

ア 身近な地域における事象を取り上げ、観察・調査する方法を身に付けさせる。

イ 身近な地域に対して理解・関心を深めるとともに、郷土を愛する心を育てる。

2 単元を通じた授業仮説

地図に親しみ、ビデオを鑑賞し、地域の特色をまとめた上で、身近な地域を対象に実地調査や発表会を行うことによって、生徒は身近な地域に対して興味・関心・理解を深め、誇りも増し、自ら考え、判断し、主体的に取り組む態度・能力が育つであろう。

3 地域の様子

大島第一中学校は大島の西岸、三原山のゆるやかな裾野の北西部に位置し、大島の玄関口で行政・経済・交通の中心地である元町、空の玄関・大島空港を中心に多角経営の農業を営む北の山、大島節の発祥の地といわれ、海岸風光明媚な野増の3地区を学区とする。

昭和の初めから椿・アンコ・三原山で代表される観光地として発展してきた大島は、昭和40年代の離島ブームをきっかけに観光来島客が一举に83万人と急増した。これをきっかけに生まれた民宿の増加等もあって、宿泊を基本とするレクリエーション地的性格へと観光形態の転換がなされた。しかし、昭和48年を境に、オイルショックによる景気の不況、伊豆大島沖地震、近くは三原山の大噴火等により来島客の停滞化へとつながり、現在では、年間約38万人に減少している。

その間、基幹産業として位置付けられてきた第一次産業は、若年層の都会への流出や、離島振興策等による様々な一時的就労機会の増大などにより、就業人口の激減をきたしている。

現在、首都圏に最も近い島という有利な条件を土台にしてきた観光環境に、さらに施設の整備やイベントだけでなく、自然との触れ合い、そしてもてなす心といった観光の原点を大切にす「人間性回復型のレクリエーション観光地」として、オールシーズン滞在型の観光地をめざしているところである。

4 生徒の実態

どの授業でも真剣に取り組む一生懸命行なうことが本校授業成立の課題であるが、それが定着していない実態がある。また、生徒は離島といえども、テレビ・雑誌等で都会の影響を受け、自らの地域「伊豆大島」のことをあまり知らない。このようなことから、本校では、生徒の内面をさぐりながら、わかる授業とは何か、生徒の側に立った授業とは何かを考えながら、今年度から第3学年で選択教科の幅を拡大した。その中で、生徒の能力、興味・関心をよく知り、自ら進んで学習することができる課題を設定し、生徒が自分のよさを見つめ、知ることができるように工夫をめぐしている。大島の自然・文化・産業等の学習を通して、興

味・関心を高め、理解を深めさせ、進学や就職で離島しても郷土を愛する心をもたせたい。

5 単元学習指導計画における仮説と検証の視点

時	指導計画	各段階における仮説	検証の視点
1	地図を見たり、資料を読み、大島の概観を知る。	・大島の噴火の地図・資料を見ることによって、興味・関心が高まるであろう。	・地図の見方や大島の概観が理解できたか。
2	大島の産業や史跡に、関心をもち、大島を調べる計画を立てる。	・大島の漁業・史跡のビデオを見ることによって、地域の産業・史跡に興味・関心が高まるであろう。	・大島について進んで学ぼうとする意欲が高まったか。
3 4	大島の産業・文化・自然に、関心をもち、大島を調べる計画を立てる。	・ビデオや資料学習をし、題材を決めることによって、大島の実態に気が付くであろう。	・大島の様々な実態について、学ぼうとする意欲が高まったか。
5 6 7	大島の産業・文化・自然を自分たちで立てた計画をもとに実地調査をし、まとめる。	・ビデオ撮影・実地調査・観察などをすることにより、大島にさらに興味・関心が増すであろう。 ・協力して調べることにより、お互いの意見や考えを大切にしようとなるであろう。	・大島の産業・文化・自然に興味・関心が増したか。 ・お互いの意見や考えを大切にしようとしたか。
8 9 10	実地調査のまとめを分析し、発表の準備をする。	・テーマについて調査し、まとめ分析することによって、より大島への理解と愛着が深まるであろう。	・大島への理解と愛着が深まったか。
11 (本 時)	大島の産業・文化・自然を発表し、大島の実態を理解する。	・発表を通してお互いの考えを大切にし、学び合う姿勢が身に付くであろう。 ・それぞれの役割を理解することにより、協力する姿勢が養われるであろう。	・お互いの考えを大切にし、協力する姿勢が高まったか。 ・学び合う姿勢が身に付いたか。

12	単元のまとめをする。	・感想を発表することにより大島の現状を知り、理解が深まるであろう。	・大島の現状を知り、地域の一員としての自覚が深まったか。
----	------------	-----------------------------------	------------------------------

6 本時の学習指導

(1) 題材 大島の産業・文化・自然について調査結果を発表する。

(2) 本時のねらい

ア 大島の産業・文化・自然の実態を知る。

イ 全員で役割分担をし協力しながら、発表する。

(3) 本時の授業仮説

ア 大島の産業・文化・自然の実地調査をし、まとめて発表することにより、大島に対して興味・関心・理解を深め、自ら考え、判断し、主体的に取り組む態度・能力が育つであろう。

イ 大島の産業・文化・自然について、ビデオ・資料を使い、代表者が発表することによりお互いの意見や考えを尊重し、協力し合える態度が養われるであろう。

(4) 展開

	学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点	検 証 の 視 点
導 入	発表の準備をする 本時の流れを確認 める。	・代表者が発表する概要を確認させる。	・話をしっかり聞いているか。
展 開	代表者4名が発表 する。 生徒が司会進行す る。 発表内容 ①大島の漁業 ②大島の公共施設 ③大島の史跡 ④三原山の大噴火	・発表の準備がしっかりできているか確認させる。 ・効果的に説明し、聞いてもらうための工夫がされている等について確認させる。	・大島の産業・文化・自然への興味・関心がもてたか。 ・協力して発表し、互いの意見や考えを認め合えたか。
ま と め	全体のまとめをす る。	・本時の学習を確認させる。	・大島の産業・文化・自然に対する関心を高め、理解や愛着が深まったか。

(5) 評 価

ア 大島の産業・文化・自然を調べることにより、大島に対して興味・関心・理解が深まった。

イ 生徒が協力して発表することによって、互いの意見や考えが認め合えた。

(6) 授業仮説に対する評価

自分たちで調べた大島の産業・文化・自然を役割分担しながら発表することによって、大島に対する理解や愛着が少しずつ芽生えてきた。また、ビデオやOHPなどを使用することや援助することによって、お互いの意見を尊重し協力し合える態度が養われた。

7 成果と課題

日頃から一つのことをまとめたり、発表することが苦手であった生徒が、選択教科の少人数の中で身近な地域「伊豆大島」を調査しまとめ、役割分担し発表できたことに成果を感じる。

しかし、調査しまとめた内容、発表する態度に課題が残る。一石二鳥にこの課題は克服することができないが、発表できたことをステップにしなが、やればできるという自信を付けさせながら、資料やビデオ等の教材を工夫しながら、郷土大島に対する理解と愛着を深めさせ、地域の人材として活躍してくれることを期待している。

VI 研究の成果と今後の課題

本研究部会では、地域の特性、保護者の願い、児童・生徒の実態について共通理解を図ったうえで、研究主題を「体験的な活動を生かし、児童・生徒の生きる力を育む指導の工夫」とした。そこで、研究主題に迫るために次の仮説を設定した。

指導計画において、体験的活動を取り入れ、学習過程・学習形態・学習材を工夫することにより

ア 自ら学ぶ意欲と進んで学習する態度・能力が身に付くであろう。

イ 互いの個性を尊重し合える態度が身に付くであろう。

ウ 地域の自然や文化を理解し、大切にすることが育つであろう。

上記仮説に基づいて検証授業を行ない、その結果、次の成果を得ることができた。

1 研究の成果について

- (1) 自分たちで育てた大豆を使い、グループでとうふづくりをすることによって、児童が意欲的に学習活動に取り組むようになってきた。(検証事例1・小1生活)
- (2) 地域に伝わる民話に触れ、劇化することによって、みんなで協力して一つのことを成し遂げるすばらしさを知り、互いの個性を尊重する態度が育まれ、地域に対する愛着も深まった。(検証事例2・小5国語)
- (3) 地域資料(八王子城の实地調査・城主氏照の手紙・寺の過去帳)の活用により、歴史を身近なものとして感じ学習意欲が高まった。また、文化財を大切にしようとする気持ちも育った。(検証事例3・小6社会)
- (4) 地域の風物を題材にし、作例の提示や実演を受けて作品を制作することで、地域に対する関心が増し、意欲的な態度が身に付いた。(検証事例4・中1美術)
- (5) 地域の自然・産業・史跡等を協力して調べ、発表することにより、お互いの考えや意見を尊重する態度が身に付いた。(検証事例5・中3選択社会)

研究の結果、検証事例を通して分かるように、児童・生徒は体験的な学習活動を展開することにより、自ら学ぼうとする意欲や互いの個性を尊重し合う態度を養うことができた。また、地域素材を教材化するという工夫によって地域に対する関心が高まり、より身近なものとして考えることができるようになった。

さらに、生きる力の育成という視点から考えてみると、以上の成果を通して確実に児童・生徒の将来にわたる生きる力の基礎を培うことができたと考える。

2 今後の課題について

- (1) 調べたことを発表する時には、単調にならないようにクイズ形式にするなど、聞き手にわかりやすく伝えるための効果的な工夫をする必要がある。
- (2) 地域素材を教材化する場合は、児童・生徒の発達段階に応じた内容になるようによく吟味することが大切である。

なお、以上の2点に加えて、評価の工夫をどのようにしていくかという問題が今後の課題として残った。